

1. 件 名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（女川原子力発電所 2号炉工事計画）（57）
2. 日 時：令和3年1月29日 13時30分～17時30分
3. 場 所：原子力規制庁 8階A会議室（一部TV会議システムを利用）
4. 出席者：（※ TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

天野安全管理調査官※、止野上席安全審査官、三浦上席安全審査官、植木主任安全審査官、片桐主任安全審査官※、藤原主任安全審査官※、皆川主任安全審査官、小野安全審査専門職※、土居安全審査専門職※、服部安全審査専門職、山浦技術参与、西澤原子力規制専門員

技術基盤グループ 地震・津波研究部門

堀野技術参与※

東北電力株式会社：

原子力本部 原子力部 課長、他2名

原子力本部 原子力部 部長、他7名※

## 5. 要 旨

- （1）東北電力株式会社から、女川原子力発電所 2号炉の工事計画補正申請のうち、サプレッションチェンバの耐震性について、提出資料に基づき説明があった。
- （2）これに対し、原子力規制庁は以下の点について指摘等を行うとともに、今後、説明内容について引き続き確認することとした。
  - 3次元はりモデルと3次元シェルモデルによる固有値解析結果の比較において、水平1次モードに比べて鉛直1次モードの固有周期の差が大きい理由を整理して提示すること。
  - 3次元はりモデルと3次元シェルモデルによる応力比較結果において、ボックスサポートの応力比較結果を提示すること。
  - サプレッションチェンバの胴中央部の応力評価について、参考扱いとしているFEM解析による応力評価の扱いを整理して提示すること。
  - ボックスサポートの応力評価方法を公式等による評価としている点について、サプレッションチェンバ本体の応力評価方法との関係も踏まえ、妥当性を整理して提示すること。

- 耐震評価に用いるサプレッションチェンバの水位条件について、運転状態、許容応力状態、荷重の組合せも含めて、設定の考え方及び妥当性を整理して提示すること。

(3) 東北電力株式会社から、(2) について了解した旨の回答があった。

なお、本面談については、事業者から対面での面談開催の希望があったため、「新型コロナウイルス感染症対策に係る原子力規制委員会の対応の一部変更について」(令和2年6月24日 第12回原子力規制委員会配付資料)に基づき、一部対面で実施した。

## 6. その他

提出資料：

- (1) 女川2号工認 指摘事項に対する回答整理表(耐震評価：サプレッションチェンバ)(O2-他-F-01-0036\_\_改0)
- (2) 補足-600-11 サプレッションチェンバの耐震評価における内部水質の考え方の変更等についての補足説明資料(O2-補-E-19-0600-11\_\_改1)

以上